

# 『集落全体で防ごう！』

# 農林産物の鳥獣被害



## 有害鳥獣被害でお困りの方へ

- ・ 集落全体的にイノシシやシカの被害にあつて困っている。
- ・ 被害を防ぎたいが、どのような取り組みをすればよいかわからない。
- ・ 電気柵を設置しているけれど、期待したような効果がない。設置の仕方問題があるのか？

このような悩みやお困りの点がありましたら、まずは林業水産課または最寄りの総合支所地域産業課にご相談ください。

### 野生鳥獣から農林産物を守るには

鳥獣から農林産物を守るには、個々の対策よりも地域（集落）全体で対策に取り組むことが重要です。次のような段階的な対策をとっていくことで、より高い防止効果が期待できます。

#### STEP 1 被害を出している動物を良く知る

被害を出しているイノシシやシカなどの鳥獣の習性や行動パターンを知ることで、自分でできる対策も見えてきます。

イノシシやシカが好む食べ物や運動能力、行動特性を知ること

は、その動物に適した対策を考えるうえで重要なヒントになります。

また、動物は、音・光・臭いなどの忌避材そのものを嫌っているのではなく、仕掛けられたことによる「環境の変化」を警戒しています。これらは短期的な効果しか期待できませんので、変化に慣れる前に次の対策を講じましょう。

#### STEP 2 被害が起きる（増えた）原因を考える

被害の発生や増加は、動物側の事情だけでなく、わたしたち人間側にも起因している場合があります。

気付かないうちに集落自体が動物にとつての「住みよい環境」や「えさ場」になっていないか考える必要があります。

例えば、周囲に、耕作放棄地や竹やぶ、空家など動物の潜み場になりそうな場所がありませんか。防護柵は適切に管理されていますか。また、収穫しない野菜や果樹が放置されていませんか。

これらのことはすべて人間が動物を集落に呼び寄せている原因になっています。

どうして自分たちの田畑に来るのかを考え、動物の気持ちになつて田畑を観察すると、その原因や対策の意外な盲点などが見えてきます。

#### STEP 3 被害対策に集落全体で取り組む

被害防止対策は、自分だけで簡単にできるものから、集落全体で協力して取り組む必要があるものまでさまざまです。

しかし、自分の田畑の被害だけ

を防ぐのではなく、地域住民が協力して自分たちの集落から追い払うことを最終的な目標と考えなければなりません。

隠れ場所になりそうな家や田畑の周囲のやぶを刈り払うなど、動物の嫌がる見晴らしのよい場所をたくさん作つて集落内に居づらくさせることは有効な対策の一つであると言われています。

また、何らかの柵を設置しようと考えている場合は、近隣の耕作者で共同で購入・設置すれば、広い範囲を効率よく囲むことができます。

すでに柵を設置している箇所は、柵の機能を維持するために柵の周囲の草刈りのほか定期的な点検・補修も必要になりますが、地域住民で協力して実施すれば効果的です。

このように地域や集落全体で協力して被害対策に取り組むことが、被害を防止するうえで重要なポイントになります。